



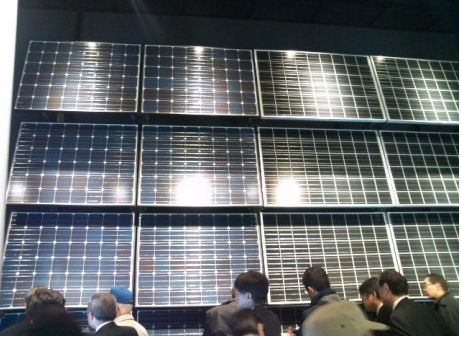


## 先進事例視察

### 視察報告

視察先	① 国立大学法人 東京工業大学 大岡山キャンパス 環境イノベーション棟 (東京都目黒区)
視察日	平成24年2月23日
視察者	オホーツク新エネルギー開発推進機構 会長 高橋信夫 (北見工業大学理事・副学長) ほか3名
調査概要	<p>東京工業大学は、学内の環境エネルギー研究機構の拠点となる「環境エネルギーイノベーション棟」を建設。3壁面及び屋根面一体にソーラーパネルを設置し、燃料電池と組み合わせ「電力の自給自足」を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構造：鉄骨造、地上7階 地下2階</li> <li>・規模：建築面積 1741.85 m<sup>2</sup> 延床面積 9553.57 m<sup>2</sup></li> <li>・総工費：36億円 (文部科学省の補助事業)</li> <li>・発電量：太陽電池 650kw (4,750枚)、燃料電池 100kw</li> <li>・設計趣旨             <ul style="list-style-type: none"> <li>①電力の自給自足ビル</li> <li>②既存の研究棟比で二酸化炭素の排出量を60%以上削減</li> <li>③外殻エネルギー吸収架構による大地震時の損傷抑制</li> <li>④ソーラーエンベロップ</li> <li>⑤世界的な環境エネルギー研究拠点における異分野の融合研究を促進する空間</li> <li>⑥キャンパスと調和する計画</li> </ul> </li> <li>・竣工：平成24年2月</li> <li>・その他：地中熱利用ヒートポンプ3本を掘り、放射冷暖房を組み合わせている。</li> </ul> <p>余剰電力が出た場合は、キャンパス内施設への送電が可能。 蓄電システムが確立すると、災害時における活用も可能。 壁面に設置しているソーラーパネルは、1フロアごと傾斜角度を変え、室内の採光、及び自然換気に配慮 建物の外周 (ソーラーパネルの内側) には、吸収エネルギーブレースを設置。地震時の衝撃を吸収し、建物本体への衝撃を緩和。</p>
写真	 <p>奥中央：東京工業大学 伊原 学 准教授 奥右側： 同 小山富士雄 特任教授</p>

視察報告

<p>視察先</p>	<p>② 浮島太陽光発電所 (川崎市川崎区)</p>	
<p>視察日</p>	<p>平成24年2月23日</p>	
<p>視察者</p>	<p>オホーツク新エネルギー開発推進機構 会長 高橋信夫(北見工業大学理事・副学長)ほか3名</p>	
<p>調査概要</p>	<p>浮島太陽光発電所は、川崎市と東京電力の共同事業として、川崎市の臨海部に建設したメガソーラー発電所。 川崎市は土地の提供と太陽光発電等の普及啓発を、東京電力は発電所の建設及び運転・保守を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最大出力：7,000kW</li> <li>・推定発電電力量：約740万kWh(年間)</li> <li>・パネル枚数：約38,000枚</li> <li>・敷地面積：約110,000㎡</li> <li>・運転開始：平成23年8月1日</li> </ul> <p>浮島太陽光発電所は、川崎市の廃棄物処理施設(浮島処理センター)の隣地に設置されており、浮島処理センター内には環境に関する体験学習施設「かわさきエコ暮らし未来館」が建設されており、当施設の屋上(展望デッキ)からメガソーラーを見学することができる。</p>	
		
	<p>浮島太陽光発電所</p>	<p>展望デッキに設置の看板</p>
		
	<p>かわさきエコ暮らし未来館</p>	<p>館内に展示されているソーラーパネル</p>